

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4075300261		
法人名	有限会社 憲信社		
事業所名	グループホームみずき		
所在地	福岡県鞍手郡小竹町大字新多1418 (電話) 09496-2-8100		
自己評価作成日	平成 28 年 11 月 30 日	評価結果確定日	平成 30 年 2 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域の行事に参加したり、近隣の小学校の生徒さんとの交流や地域のボランティアの方々の受け入れをしており、地域の方と触れ合える機会を大切にしています。また、看取りの介護にも力を入れており、最後まで慣れ親しんだ環境で自分らしい生活、ご希望に添える生活ができるよう、ご本人様、ご家族様、主治医、訪問看護ステーション、介護スタッフで協力して取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 29 年 12 月 11 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者、家族、施設長、総括管理者、リーダー、職員の縦と横の関係は、お互いを思いやることを土台として事業所の運営が成り立っており家族的な温かみのある支援につながっている。どんなことでも率直に話ができ、お互いに協力しあう関係が構築されている。看取りにおいても医療機関、訪問看護との連携と事業所内の上記の相互関係が加味されて充実している。施設長の職員一人一人への心配りが、事業所内をまとめており、真心と思いやりの心を醸成している。常に、相手の気持ちを思いやり、自らの良心に誠実であろうと努力している。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様と地域の方々、職員が支えあい街づくりに貢献する。という理念を掲げており、日々のお世話の中で、理念や職員の誓いを念頭に置きサービス提供を行うように努めています。	地域住民との交流を重視し地域で支える町づくりに貢献する理念を有している。朝の申し送り時や2ヶ月に1回の頻度で開かれる全体会議において理念に基づく現場での実践を深める取り組みを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板を毎月回していただいています。また、地域のボランティアの方々にも来苑していただき、昭和琴や本の読み聞かせ等毎月披露していただいております。	事業所便りを毎月小学校、町役場に持参している。事業所主催の“みずき秋祭り”は毎年地域住民を招いて開催されている。近隣の小学校、中学校、高等学校、専門学校との交流も盛んである。近隣住民も事業所への立ち寄り、おすそ分けも行われている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様には、入所時や来援時に説明しており運営会議でも議題にして取り組んでおります。また、近隣の小学校との交流の際にも認知症の方の支援の方法や関わり等を伝えています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域の民生委員や近隣住民代表の方、役場の方、入居者様、ご家族様に参加していただき日頃の様子報告や困難事例などを相談して、率直な意見や提案を頂きサービスの向上に生かしています。	運営推進会議は2ヶ月に一度開催され、サービスの実際や外部評価についての取り組みが報告され、会議で出された意見をサービスの向上に活かしている。具体例として、五月に行われた日帰り旅行での暑気対策、おやつの居室への持ち込みについて家族、医師、事業所の取り組みで解決がなされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの新聞や、利用状況を役場に届けホームの実態や実態や考えを知っていただいています。また、運営推進会議の場でも役場職員の方に課題点などあれば相談し協力を仰いでいる。	市町村担当者との連絡は緊密である。介護に関する相談を始め、管理者が介護職員として現場に入る際の勤務時間の割り振り方について町、介護保険者との相談で解決に至っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成しておりスタッフにも指導を行っている。	拘束に関する内部、外部の研修がなされており記録も残されている。身体拘束をしないケアへの姿勢が法人トップから強く感じられる。玄関は屋間、網戸にしており、拘束感を和らげる工夫をしている。ウッドデッキ（庭）への施錠はなされていない。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての外部勉強会等にも参加し、参加した職員が施設へ持ち帰り施設内勉強会を開いており、虐待防止の文章も休憩室に掲示している。また、入居者様のご様子や入浴時などに虐待など発生していないか観察を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に、ご家族様と入居者様に権利擁護に関する制度の活用についても説明し、パンフレットも準備している。	制度への理解を深める内部研修が行われており、テキスト、パンフレットを始め記録がある。勤務のため出席が出来なかった職員については、研修内容の伝達が行われている。利用者、家族への説明は契約時に行われている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に予想される事故やトラブル等については、事前に説明をしている。また、契約前にご家族様及び入居者様に施設見学を行って頂き、不安や疑問についても訪ねるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時に苦情や意見が気兼ねなく言える雰囲気づくりを心掛けている。また、定期的にご家族様アンケートを送付し、意見箱「お宝ポスト」を玄関に設置している。	利用者、家族と事業所との関係は、信頼関係で結ばれている。運営に関する意見は施設長、管理者、職員誰にでも気軽になされている。席がえ、身づくろい、物品の購入、料理、おやつを始め、受診など様々なことについて利用者、家族から意見が出ており、運営に反映されている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員が発言できる雰囲気を作っており、会議でも積極的に意見や提案をしてもらい運営に反映している。	事業所で行われる年間行事は、職員の主導で行われている。職員による施設長、管理者、リーダーへの意見や提案は頻繁に行われている。職員による現場での創意工夫が受け入れられている。職員の離職、異動がほとんど見られない。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ職員の要望は聞くようにしており、状況に応じて話し合いの場も設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとしして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集にあたっては、男女問わず幅広い年齢層で募集をしており、採用された方は明るく生き生きと勤務している。向上心を持って働ける様、相談・助言を行い、資格取得についても積極的に支援している。</p>	<p>スタッフは男女、22歳から71歳まで幅広い。職員の定年は65歳であるが70歳迄延長され、更に体力と気力があれば、1年更新で延長される。福利厚生、昇給に関しても法人は、職員が働きやすいよう配慮している。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>勉強会や会議による人権教育や、話し合いを行い啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>内部研修が行われている。勤務のローテーションで不参加の職員に対しては、研修内容の伝達がなされている。その折のテキスト、パンフレット、研修記録もある。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社後半年以内に新人研修を行っている。また、施設内で2ヶ月にごとに勉強会を行い介護技術の指導を行っている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>以前から行っていた町内の同業者の集まりは途絶えてしまっているが、近隣の施設等には施設情報等提供しており、意見交換なども行っている。また、他事業所が開催している交流会の場などにも参加している。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前から、施設見学をしていただいたり、こちらからご自宅等へ訪問し、話し合いにてご本人様やご家族様の不安や要望などをお聞きし、徐々に施設に馴染んでいただける様な関係づくりに努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>上記取り組みと同様。また、話しやすい環境を作り信頼関係が築ける様努力している。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の精神面、身体状況、環境状況を把握し、今どんな支援が必要かを具体的に話し合い見極めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様がご自分で出来ることはして頂く様にしており、得意なことは入居者様がスタッフに教える等ともに支えあう関係作りに努めている。また、その人らしさや健康な能力の発揮を支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	園の行事にご家族様を招待し、楽しみや思い出を分かち合い、ともに支える関係作りをしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人の面会時には、お茶をお出しする以外は入室を控え、ゆっくりと過ごしていただける様心配りをしている。また、外出などの支援も行っている。	職員は、利用者の生活歴、馴染みの人や場所を把握しており通院、買い物際には、ゆかりの場所に遠回りして立ち寄ることもある。その際には、知人との会話を楽しんでいる。また、利用者の知人の通夜、葬儀、結婚式への参列もサポートされている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間や、レクリエーションにて一緒に過ごす時間の調節役として、また、入居者様同士の会話の橋渡しなど関係がうまくいくように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご入居者様やご家族様の関わりを大切に、手紙などのやり取り等もしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様とのコミュニケーションを密にとり、希望や意見を把握するように努めている。意思表示が困難な場合は、日々のご様子や、アセスメント、ご家族様からの情報から把握できるように努めている。	利用者の生活歴、家族からの聞き取りや、入所後の観察で蓄積されたデータを通して、仕草、行動を分析して思いや意向の把握に役立てており、事業所内で共有されている。本人の希望や意思の把握が概ね出来ている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様及びご家族様や今まで担当されていたケアマネージャーより入居前に聞き取り調査を行い把握するように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや過ごし方の違いを理解し、個人の出来る事やしたい事を探り取り入れ、出来ることを増やしていくように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様からは日々の関わりの中で思いや意見を積極的に聞きしている。定期的にカンファレンスを行い職員で意見交換を行っている。	6か月に1回見直しをしている。その際は月末にモニタリングを行い、職員から利用者の様子や意見を必ず聞いて作成している。排泄を決まった時間に促すのではなく、本人が排泄したいという様子を見せたときのみ促してほしいという家族の要望があった利用者に対しては、それを計画に取り入れた。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	訴えや行動、スタッフが掛けた言葉、更衣、相手の反応、感じたことを細かく記録するようにしており介護計画にいかしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの宿泊希望時、寝具や食事を提供している。また、外出時の同行、入院時の面会等の支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、近隣の小学校、地域のボランティアの方々に来苑していただき支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様ご希望の場合はかかりつけ医の受診を行っている。また、希望の無い場合は同意の上で協力医療機関から往診に来ていただき24時間体制での連絡体制も整っている。	利用開始時にかかりつけ医か往診医かの希望をきいている。受診結果は月1回の請求書郵送時に同封している。また、家族の同意が必要な検査や受診の時は電話で知らせ、同行をお願いしている。24時間体制の訪問看護事業所と提携して、緊急時に備えている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	アップルハート訪問看護により24時間連絡、相談体制が整っている。また、週1回の訪問看護にて健康管理を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は面会に行くようにしており、なじみの顔を見せ入居者様に不安を与えないよう努めている。また、かかりつけ医、入院先関係者、施設側職員が常に情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を定め、契約時に終末期における医療処置の対応、職員、家族、かかりつけ医等、関係者との連絡を密にし情報を共有し今後の変化に備え準備が出来るようにしている。	重度化や終末期の対応について明文化し、利用開始時に説明している。終末期は主治医の指示を受け対応できる24時間訪問看護を利用する。家族には直接主治医から話をしてもらい、職員も情報を共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	半年に一度、救命救急についての研修、実技の指導を受けている。また、緊急時、即座に対応できるよう、緊急時対応マニュアル、連絡網を作成している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時の避難経路や場所の看取りづも揭示し、連絡網も作成している。また、定期的に避難訓練も実施している。	年2回実施し、うち1回は夜間を想定した訓練を行っている。消防署の協力も得て、消火器の取り扱いなどを訓練している。住民にも参加してもらえるように声掛けを実施している。非常用にメニューの3日間分の食材を常に備蓄している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方や入浴排泄などの対応についての勉強会を行っており、日々の支援に生かしている。また、記録などの個人情報に関する秘密保持も徹底している。	着替え時は必ず部屋のドアを閉め、失禁時は周りに悟られないように気をつけている。利用者のファイルは鍵のかかるケースに保管している。利用者の情報を口外しないことを誓約書に明記し、職員の入社時に署名してもらっている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との会話の時間をもち、さりげなく好みを聞いたり、出来るだけ本人の思いに沿った生活ができるように支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調やその日の気分等を十分に観察した上でご本人様の希望を最優先し支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度訪問美容サービスを受けている。また、更衣の際はご本人様の好みの衣服の要望を聞き用意している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の食事の好みを把握し食べられないものは別の食材で対応している。食事中は入居者様、職員がテーブルを囲んで会話しながら楽しく頂けるよう雰囲気づくりに努めている。	普段は外部業者のメニューだが、月1回は利用者が好きな食べ物とおやつを選べるランチの日、おやつの日を設けている。利用者一人一人の嗜好で肉を魚にするなどの変更は常に行っている。自家菜園でとれたカボチャ等を食材に取り入れたり、お箸やごはん茶碗は自宅から持ってきてなじみの物を各自使用している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材会社の指示のもと一人一人の状態に合った食事を提供し、毎日の摂取量を記録しその方に応じた水分量、栄養バランスを確保している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方に合った口腔ケアを行っている。また、一部入居者様に対しては、週に一度歯科往診に来ていただいている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを記録し、見守りや声掛け介助を行っている。	失禁時はお風呂や部屋に誘導し、衣服を着替させている。排泄チェック表で、一人一人の排泄間隔を把握し、その時間の声掛けで、オムツがりハパンツで改善した事例もある。車椅子の方で、尿意があると座位が保てなくなり体が下がってくるというサインを見つけ、見落とさないように注意し誘導している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況を把握し、ヨーグルトや食物繊維の多く入ったものをおやつで提供している。また、腸の動きを促進できるように下腹部のマッサージなども行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週に4回入浴の日を設け規定日以外でも希望時に入浴ができる体制を整えている。入浴は、入居者様の状態に合った支援を行っている。	定期的に週4日は入浴しており、いつでも入浴できるようにしている。嫌がる利用者には、時間をずらしたり「病院に行くからきれいにしておきましょう」など言葉かけの工夫をしている。シャンプーなどは利用者自身のお気に入りのものを使ってもらい入浴剤を使用して楽しく入浴できるように支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や体調をもとに安心して休める環境づくりに努めている。夜間眠れない時は暖かい飲み物を出したり、会話をを行う等して、安心して眠れるように支援している。また、日中の活動を通じて生活リズムが整うように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に二回薬剤師が来訪し、医師からの処方された薬の管理、説明を行っている。また、薬の説明書をここにファイルして職員が常に確認できるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な能力を発揮できるよう、園芸や手芸、制作、レクリエーション等を職員と一緒に取り組み丹生y個社様のアイデアを活かせるよう取り組んでいる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天気の良い日には、入居者様の要望に合わせて園外に出かけている。また、季節に合った外出支援を行っており、入居者様に季節感を肌で感じていただいている。	月に1回は必ず外出計画を立てている。受診の帰りに利用者の希望の場所に連れて行く。自宅の近所に行きたい、コンビニでアイスクリームを食べたいなどの要望にも対応している。年に1回はご家族も一緒の日帰り旅行を実施している。月2回の買い物外出も行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる入居者様についてはご自分で管理していただいている。また、管理が難しい入居者様に対しては、買い物日を設け希望されるものを購入できる機会を設けている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望時にはいつでもご利用いただける様開放している。また、手紙や切手の準備、ポストへ入れるまでの支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分であるホールには対面キッチンが設置されており、いつでも料理の過程がみられるようになってきている。また、ホールからテラスには車いすでも自由に出入りできるようになっており、快適な空間となっている。	季節に関係のあるものを、利用者と一緒に作り飾っている。ソファがテレビの前、テラスの前など適度に置かれ、日光浴や娯楽が楽しめるように工夫されている。テラスに自由に行き来できるようにしたり、喫煙場所を設けたり、利用者が気持ちよく過ごせるように配慮している。お互いが気をつかわずに過ごせるように利用者同士の席の位置にも配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の畳の間や、日当たりの良い場所にソファ、イスを置き、いつでもゆったりとくつろがれたり、仲の良い入居者様同士が会話できるような空間を設けている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際はご本人様の使い慣れた物をお持ちいただき、馴染みの者をおくことで	それぞれの工夫がなされ、各部屋ごとに利用者の家族写真やなじみの人形などを自由に置いている。また、お菓子の好きな利用者には、居室に自由にお菓子を置き、職員が管理している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりの現状を把握し、配慮した支援を行っている。トイレを突き当たりに設置し、ドアの色を変える等施設内の作りが分かりやすくなっており、過ごしやすい環境となっている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様と地域の方々、職員が支えあい街づくりに貢献する。という理念を掲げており、日々のお世話の中で、理念や職員の誓いを念頭に置きサービス提供を行うように努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板を毎月回していただいています。また、地域のボランティアの方々にも来苑していただき、昭和琴や本の読み聞かせ等毎月披露していただいております。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様には、入所時や来援時に説明しており運営会議でも議題にして取り組んでおります。また、近隣の小学校との交流の際にも認知症の方の支援の方法や関わり等を伝えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域の民生委員や近隣住民代表の方、役場の方、入居者様、ご家族様に参加していただき日頃の様子報告や困難事例などを相談して、率直な意見や提案を頂きサービスの向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの新聞や、利用状況を役場に届けホームの実態や実態や考えを知っていただいています。また、運営推進会議の場でも役場職員の方に課題点などあれば相談し協力を仰いでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成しておりスタッフにも指導を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての外部勉強会等にも参加し、参加した職員が施設へ持ち帰り施設内勉強会を開いており、虐待防止の文章も休憩室に掲示している。また、入居者様のご様子や入浴時などに虐待など発生していないか観察を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に、ご家族様と入居者様に権利擁護に関する制度の活用についても説明し、パンフレットも準備している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に予想される事故やトラブル等については、事前に説明をしている。また、契約前にご家族様及び入居者様に施設見学を行って頂き、不安や疑問についても訪ねるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時に苦情や意見が気兼ねなく言える雰囲気づくりを心掛けている。また、定期的にご家族様アンケートを送付し、意見箱「お宝ポスト」を玄関に設置している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員が発言できる雰囲気を作っており、会議でも積極的に意見や提案をしてもらい運営に反映している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ職員の要望は聞くようにしており、状況に応じて話し合いの場も設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集にあたっては、男女問わず幅広い年齢層で募集をしており、採用された方は明るく生き生きと勤務している。向上心を持って働ける様、相談・助言を行い、資格取得についても積極的に支援している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会や会議による人権教育や、話し合いを行い啓発活動に取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後半年以内に新人研修を行っている。また、施設内で2ヶ月にごとに勉強会を行い介護技術の指導を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前から行っていた町内の同業者の集まりは途絶えてしまっているが、近隣の施設等には施設情報等提供しており、意見交換なども行っている。また、他事業所が開催している交流会の場などにも参加している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から、施設見学をしていただいたり、こちらからご自宅等へ訪問し、話し合いにてご本人様やご家族様の不安や要望などをお聞きし、徐々に施設に馴染んでいただける様な関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記取り組みと同様。また、話しやすい環境を作り信頼関係が築ける様努力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の精神面、身体状況、環境状況を把握し、今どんな支援が必要かを具体的に話し合い見極めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様がご自分で出来ることはして頂く様にしており、得意なことは入居者様がスタッフに教える等ともに支えあう関係作りに努めている。また、その人らしさや健康な能力の発揮を支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	園の行事にご家族様を招待し、楽しみや思い出を分かち合い、ともに支える関係作りをしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人の面会時には、お茶をお出しする以外は入室を控え、ゆっくりと過ごしていただける様心配りをしている。また、外出などの支援も行っている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間や、レクリエーションにて一緒に過ごす時間の調節役として、また、入居者様同士の会話の橋渡しなど関係がうまくいくように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご入居者様やご家族様の関わりを大切に、手紙などのやり取り等もしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様とのコミュニケーションを密にとり、希望や意見を把握するように努めている。意思表示が困難な場合は、日々のご様子や、アセスメント、ご家族様からの情報から把握できるように努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様及びご家族様や今まで担当されていたケアマネージャーより入居前に聞き取り調査を行い把握するように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや過ごし方の違いを理解し、個人の出来る事やしたい事を探り取り入れ、出来ることを増やしていくように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様からは日々の関わりの中で思いや意見を積極的にお聞きしている。定期的カンファレンスを行い職員で意見交換を行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	訴えや行動、スタッフが掛けた言葉、更衣、相手の反応、感じたことを細かく記録するようにしており介護計画にいかしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの宿泊希望時、寝具や食事を提供している。また、外出時の同行、入院時の面会等の支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、近隣の小学校、地域のボランティアの方々に来苑していただき支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様ご希望の場合はかかりつけ医の受診を行っている。また、希望の無い場合は同意の上で協力医療機関から往診に来ていただき24時間体制での連絡体制も整っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	アップルハート訪問看護により24時間連絡、相談体制が整っている。また、週1回の訪問看護にて健康管理を行って頂いている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は面会に行くようにしており、なじみの顔を見せ入居者様に不安を与えないよう努めている。また、かかりつけ医、入院先関係者、施設側職員が常に情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を定め、契約時に終末期における医療処置の対応、職員、家族、かかりつけ医等、関係者との連絡を密にし情報を共有し今後の変化に備え準備が出来るようにしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	半年に一度、救命救急についての研修、実技の指導を受けている。また、緊急時、即座に対応できるよう、緊急時対応マニュアル、連絡網を作成している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時の避難経路や場所の看取りづも揭示し、連絡網も作成している。また、定期的に避難訓練も実施している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方や入浴排泄などの対応についての勉強会を行っており、日々の支援に生かしている。また、記録などの個人情報に関する秘密保持も徹底している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との会話の時間をもち、さりげなく好みを聞いたり、出来るだけ本人の思いに沿った生活ができるように支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調やその日の気分等を十分に観察した上でご本人様の希望を最優先し支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度訪問美容サービスを受けている。また、更衣の際はご本人様の好みの衣服の要望を聞き用意している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の食事の好みを把握し食べられないものは別の食材で対応している。食事中は入居者様、職員がテーブルを囲んで会話しながら楽しく頂けるよう雰囲気づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材会社の指示のもと一人一人の状態に合った食事を提供し、毎日の摂取量を記録しその方に応じた水分量、栄養バランスを確保している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方に合った口腔ケアを行っている。また、一部入居者様に対しては、週に一度歯科往診に来ていただいている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを記録し、見守りや声掛け介助を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況を把握し、ヨーグルトや食物繊維の多く入ったものをおやつで提供している。また、腸の動きを促進できるように下腹部のマッサージなども行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週に4回入浴の日を設け規定日以外でも希望時に入浴ができる体制を整えている。入浴は、入居者様の状態に合った支援を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や体調をもとに安心して休める環境づくりに努めている。夜間眠れない時は暖かい飲み物を出したり、会話をを行う等して、安心して眠れるように支援している。また、日中の活動を通じて生活リズムが整うように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に二回薬剤師が来訪し、医師からの処方された薬の管理、説明を行っている。また、薬の説明書をここにファイルして職員が常に確認できるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な能力を発揮できるよう、園芸や手芸、制作、レクリエーション等を職員と一緒に取り組み丹生y個社様のアイデアを活かせるよう取り組んでいる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天気の良い日には、入居者様の要望に合わせて園外に出かけている。また、季節に合った外出支援を行っており、入居者様に季節感を肌で感じていただいている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる入居者様についてはご自分で管理していただいている。また、管理が難しい入居者様に対しては、買い物日を設け希望されるものを購入できる機会を設けている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望時にはいつでもご利用いただける様開放している。また、手紙や切手の準備、ポストへ入れるまでの支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分であるホールには対面キッチンが設置されており、いつでも料理の過程がみられるようになっている。また、ホールからテラスには車いすでも自由に出入りできるようになっており、快適な空間となっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の畳の間や、日当たりの良い場所にソファ、イスを置き、いつでもゆったりとくつろがれたり、仲の良い入居者様同士が会話できるような空間を設けている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際はご本人様の使い慣れた物をお持ちいただき、馴染みの者をおくことで		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりの現状を把握し、配慮した支援を行っている。トイレを突き当たりに設置し、ドアの色を変える等施設内の作りが分かりやすくなっており、過ごしやすい環境となっている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない